

## 2025年度の主な事業の計画 ～こんなことやります&始めました～

千葉市民活動支援センターは、2022年度より「特定非営利活動法人まちづくり千葉」が指定管理者として施設の管理運営を担っていますが、おかげさまで4月より、5年間の指定管理期間の4年目に入ることができました。ここでは2025年度に予定している主な事業の計画の概要や方針、また既に始めている新たな取組についてご紹介します。

### ●「千葉市民活動フェスタ」の開催日・会場が決定！

市民公益活動の周知・参加促進、団体相互の交流等を目的とした年に一度のイベント「千葉市民活動フェスタ」の開催に向け、実行委員会を始動。開催日は「2025年11月15日(土)・16日(日)」に、会場は「さぼーる1階アトリウム」に決定しました。参加をお考えの団体の皆様は、まずは日程の確保をお願いします！



となる今年度からカリキュラムを一新して、登録団体の方(活動の実践者)による講話を多く盛り込みながら実施します。概要は4頁の記事を参照ください。

### ●企業や大学との連携を進めます

これまでにつながりを作った企業や大学等との継続的な関係づくりや、協働した取り組みの実施など、具体的な連携を進めていきます。

### ●「Instagram」始めました！

新たに「Instagram」での情報発信を開始しました！右のQRからどうぞフォローをよろしくお願いします！



@CHIBA\_SAPO

### ●「施設のPR」を積極的に展開します

公共施設や公的空間など、一般市民が訪れたり、人の行き来があったりする場所での「施設(当センター)のPR」を、積極的に展開します。登録団体の活動紹介や発表などのプログラムも盛り込み、上記の「フェスタ」を補完する事業に位置付けることも検討します。

### ●「ちばボランティア塾」は「新カリキュラム」に

ボランティアへの関心を高め、実際に活動する人を増やすことを目的とした養成講座「ちばボランティア塾」は、4年目

### ◆4月からの体制について(新センター長よりご挨拶)

新年度より、原田正隆がセンター長に、永棟峰代が副センター長に就任しました。前センター長の山本俊子は、コーディネーターとして在職を続けます。2人の新入職員も迎え、職員一同、気持ちも新たに業務にあたります。引き続きご指導、ご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

ミニコラム

## ちばさぼの風 vol.67 ボランティアのすすめ

こんにちは。千葉市民活動支援センター事務局長の榎浦です。今年度の「ちばさぼの風」では、生成AI「ChatGPT」を活用しながら、ボランティア・市民活動・地域活動に役立つ情報を発信していきたいと思えます。

今回は「ボランティアのすすめ」と題して、読者の皆さんがボランティアに参加しやすくなるような情報をお届けします。

少し私見になりますが、ボランティアに必要なのは、「やる気」「体力」、そして「時間」だと思っています。特に「時間」については、人生をある程度生きてきて感じたことがあります。それは、30代・40代の人にとって、ボランティアをする時間を確保するのは本当に難しいということです。まず仕事。30代・40代は仕事に打ち込む時期であり、残業も多く、休日も何かと忙しいものです。

次に家庭。結婚して子どもがいれば、子育てにかかる時間とエネルギーは計り知れません。たとえ子どもがいなくても、限られた余暇の中でボランティアを選ぶというのは、なかなかハードルが高いのではないのでしょうか。

さらに、この時期は経済的にも余裕がないことが多いです。実際、私自身も当時は時間もお金もなかなか自由に使えなかったことをよく覚えています。だからこそ、ボランティアは10代・20代のうちに経験しておくことをおすすめします。学生時代などに一度でもボランティアに関わっておくと、その後の人生に役立つ場面がきっと出てきます。また、50代以降で時間に余裕ができたなら、地域活動やボランティアに少しずつ関わってみるのも良いタイミングです。実際、地域の中

では町内会や自治会などに、自然と関わる機会が増えてくる時期でもあります。

最近では、「有償ボランティア」という新しい形も注目されています。これは、ボランティアでありながら、活動に対して報酬(謝礼や交通費など)を受け取る形態のことです。「ボランティアなのにお金をもらうのはおかしい」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、けれども、たとえば20代の若者が被災地に行って活動しようとする、交通費や宿泊費、食費などを全て自己負担するのは現実的ではない場合もあります。もちろん経済的に余裕があればよいのですが、支援があることで参加のハードルが下がるのも事実です。

無償ボランティアは、「無報酬で社会貢献する」という大きなやりがいがあります。一方で、継続しづらいという課題もあります。一方、有償ボランティアであっても、食事や交通費の支給があることで継続的に関われるなら、それは立派な社会貢献です。実際、子育て支援(ファミリーサポートなど)や地域活動(見守り、清掃活動、イベント運営など)では、さまざまな有償ボランティアの形が取り入れられています。参加を検討するときは、ボランティア情報の「活動条件」の欄をチェックし、自分に合ったスタイルの活動を選んでみてください。

ボランティアには、年齢やライフスタイルに応じたさまざまな関わり方があります。無理なく、自分らしいペースで一歩を踏み出してみたいはかがでしょうか？

